

仙台空港をハブ化

LCC、貨物機能も

官民研究組織が構想

仙台空港の民営化について検討している官民の研究組織「仙台空港等と公共施設等運営権研究会」(山内隆弘一橋大大学院教授)は、仙台空港にハブ機能を持たせる構想を

まとめた。東アジアの主要都市や韓国との主要都市のほか、ハブ構想の直行便は、中国や韓国の主要都市のほか、ハブ

などと呼び込みたい考え。仙

台空港単独でなく、東北地方全体の活性化につなげる目的も大きい。仙台空港から東北地方内の各空港までを小型機で結ぶことで、観光需要も取り込む構想だ。

一方、貨物面でも東北地方内の一大ターミナルとして位置付ける。旅客と同様に空路で国内外の空港を結ぶほか、海上輸送や陸路輸送などと連携させる。

このほか、仙台空港アクセス鉄道の有効活用策なども検討している。

同研究会は日本PFI・PPP協会(植田和男理事長)が設置した。地方自治体のほか金融、不動産、商社、建設などの民間企業が参画している。

